工学院大学 冨永研究室 2024

小伊津集落プロジェクト

島根県出雲市小伊津町

民家がすり鉢状に並ぶこの集落は、数多の災害に見舞われながらその機能や形態を変化させてきた。
建築学生が基点となり、集落空き家に眠るかつての記憶の『継承』と新たな居場所の『更新』を行う。

継承× 更新

- 急斜面地密集集落における古民家再生手法 -

概要

所在 島根県出雲市小伊津町

面積 2,340,000 ㎡

人口 423 人

住戸数 169 戸

斜面密集集落
小伊津町

出雲市
小伊津町
松江・安来
太田・邑智
雲南
浜田・江津
増田・津和野

小伊津の魅力

漁業

朝から元気に魚を仕分ける現役の漁師達は、漁村集落の小伊津に欠かせない存在です！

高低差

山と海に囲まれた地形は、独自な道や階段や段上の景観を形成します。

路地

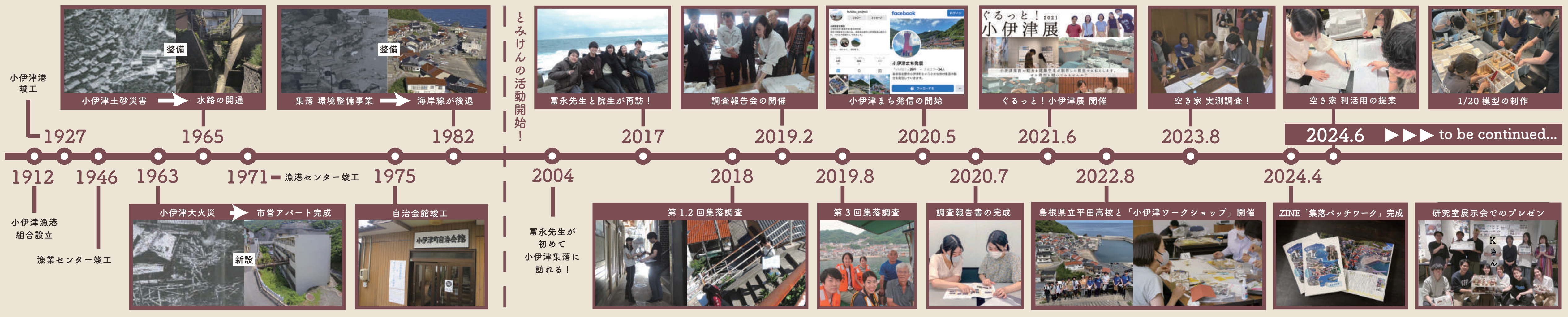
入り組んだ細い路地では、建物の隙間から山や海といった美しい景色が現れる。

人

小伊津の皆さんは皆元気で優しい人ばかり！いつも優しく迎えてくれます。

小伊津ととみけんの歴史

小伊津と冨永研究室には長～い歴史があるんです！



- 1912 小伊津漁港組合設立
- 1927 小伊津港竣工
- 1946 漁業センター竣工
- 1963 小伊津大火災 → 市営アパート完成
- 1965 小伊津土砂災害 → 水路の開通
- 1971 漁港センター竣工
- 1975 自治会館竣工
- 1982 集落 環境整備事業 → 海岸線が後退
- とみけんの活動開始！
- 2004 冨永先生が初めて小伊津集落に訪れる！
- 2017 冨永先生と院生が再訪！
- 2018 第 1.2 回集落調査
- 2019.2 調査報告会の開催
- 2019.8 第 3 回集落調査
- 2020.5 小伊津まち発信の開始
- 2020.7 調査報告書の完成
- 2021.6 ぐるっと！小伊津展 開催
- 2022.8 島根県立平田高校と「小伊津ワークショップ」開催
- 2023.8 空き家 実測調査！
- 2024.4 ZINE「集落パッチワーク」完成／研究室展示会でのプレゼン
- 2024.6 空き家 利活用の提案／1/20 模型の制作 ▶▶▶ to be continued...

整備
整備
新設
ぐるっと！小伊津展 2021
Kさん

空き家と実測調査

空き家を提供してくれた家主

先生の小伊津が好き、恋人に会うみたいというお気持ち、本当に有り難く、小伊津に生まれ育ったことに誇りを持たせていただける言葉です。学生さんもファンになってくれるのは嬉しいです。活動後ご卒業されて全国あちこちで活躍されても、昔小伊津に行ったなぁ、いいところだった、おばちゃんやおじちゃんも優しかったと思い出してくれたら第二第三の故郷になるのではないかと、また子供さんとか連れて行ってくれる日もあるかもしれないなどと勝手な妄想をしています。

Kさん

空き家について

異なる床のデザイン
変化する部屋の利用

リフォームを繰り返していた空き家

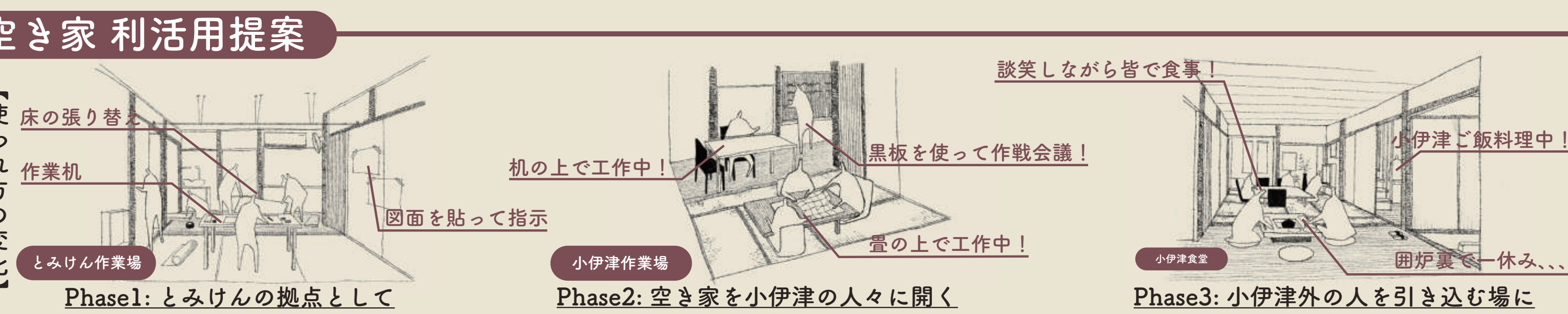
空き家の現状

修繕が必要な箇所
美容室の内装が残る空間

持ち主は当時、部屋を美容室に変えたり、壁紙を美容室に合う素材に変えたりと、リフォームを頻繁に行っており各々の部屋に個性がある。これらを空き家の特徴と捉え、私たちの利活用提案に生かす。

空き家 利活用提案

【使われ方の変化】

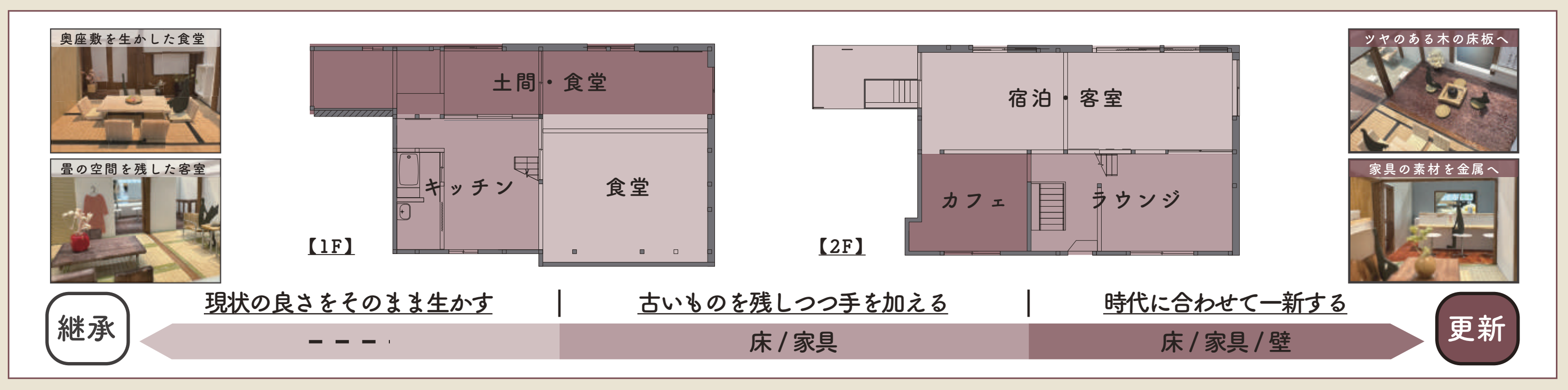

床の張り替え
作業机
図面を貼って指示
とみけん作業場
机の上で工作中！
黒板を使って作戦会議！
畳の上で工作中！
小伊津作業場
談笑しながら皆で食事！
小伊津ご飯料理中！
囲炉裏で一休み、、、
小伊津食堂

Phase1: とみけんの拠点として

Phase2: 空き家を小伊津の人々に開く

Phase3: 小伊津外の人を引き込む場に

【空間の新旧グラデーション】


奥座敷を生かした食堂
畳の空間を残した客室
土間・食堂
キッチン
食堂
【1F】
宿泊・客室
カフェ
ラウンジ
【2F】
ツヤのある木の床板へ
家具の素材を金属へ

継承	現状の良さをそのまま生かす	古いものを残しつつ手を加える	時代に合わせて一新する	更新
	- - -	床 / 家具	床 / 家具 / 壁	

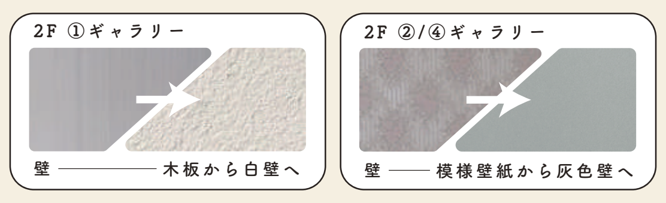
継承 【第１期】学生達の作業場として ⟶【第２期】小伊津の人々に向けて開く ⟶【第３期】訪れた人を引き込む 更新

【第１期】学生達の作業場として

【2F】

小伊津の人に向けたギャラリー

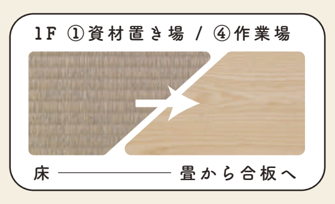
2階は、学生が制作した報告書や模型などを展示し、これまでの活動を小伊津の人々に知ってもらう場とする。

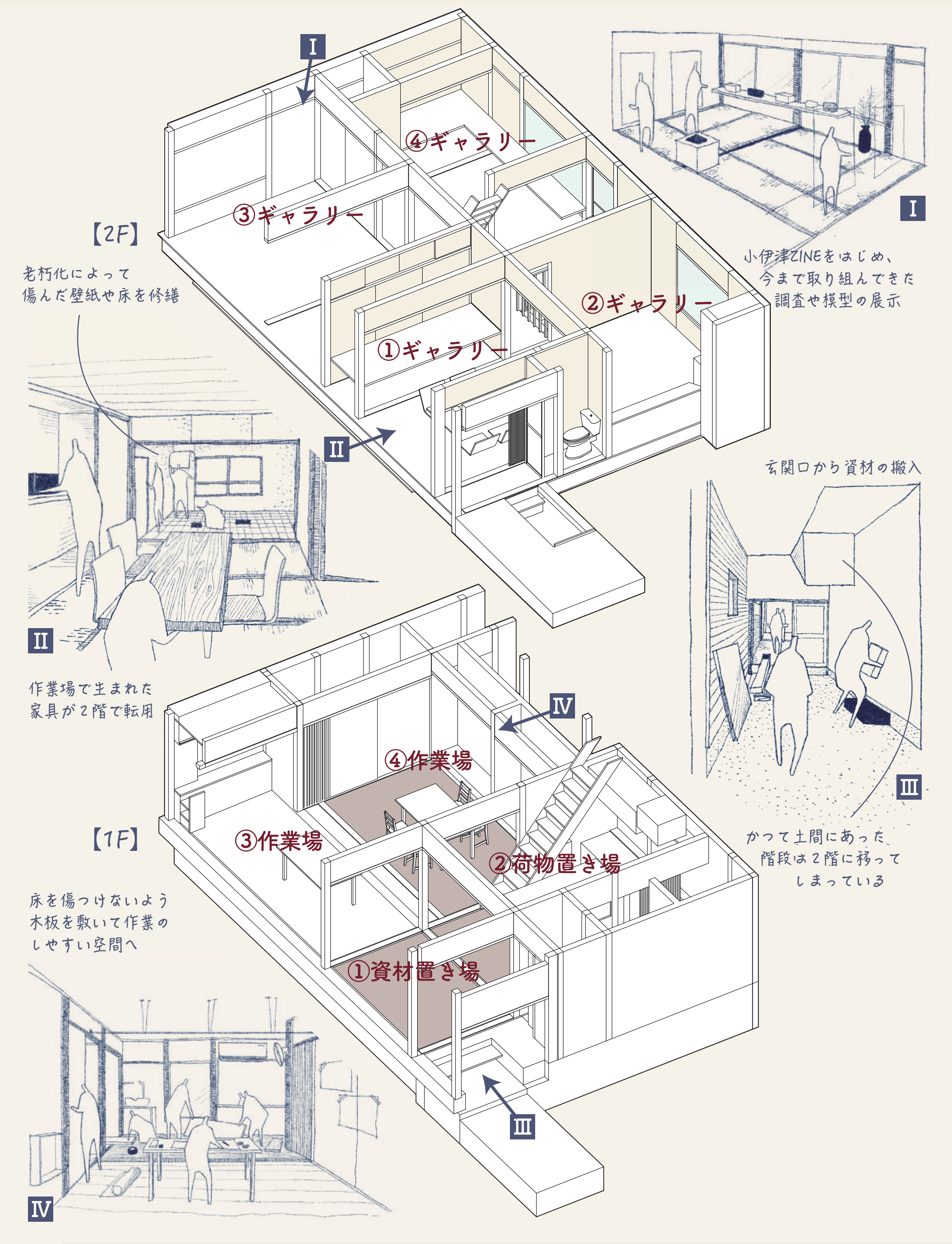

2F ①ギャラリー
壁 —— 木板から白壁へ
2F ②/④ギャラリー
壁 —— 模様壁紙から灰色壁へ

【1F】

とみ研活動拠点・作業場

1階は、冨研メンバーが小伊津を訪問した際の作業のため、奥の客間と玄関前の畳を合板にし作業机を置いて研究室の活動拠点とする。


1F ①資材置き場 / ④作業場
床 —— 畳から合板へ

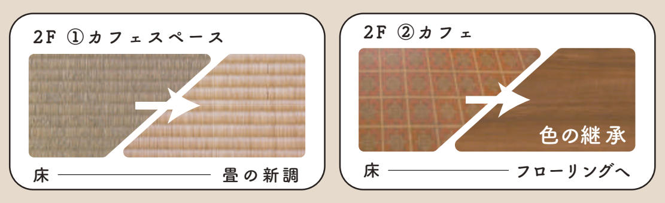

【2F】
④ギャラリー
③ギャラリー
②ギャラリー
①ギャラリー
老朽化によって傷んだ壁紙や床を修繕
小伊津ZINEをはじめ、今まで取り組んできた調査や模型の展示
玄関口から資材の搬入
作業場で生まれた家具が2階で転用
【1F】
④作業場
③作業場
②荷物置き場
①資材置き場
かつて土間にあった階段は2階に移ってしまっている
床を傷つけないよう木板を敷いて作業のしやすい空間へ
I
II
III
IV

【第２期】小伊津の人々に向けて開く

【2F】

カフェ・地元作品展示コーナー

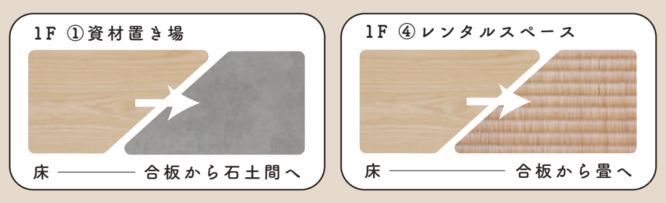
2階は、小伊津の人々による制作物を展示し、美容室だった場所にカフェを設置することで地元の人の交流の起点となるような場所とする。

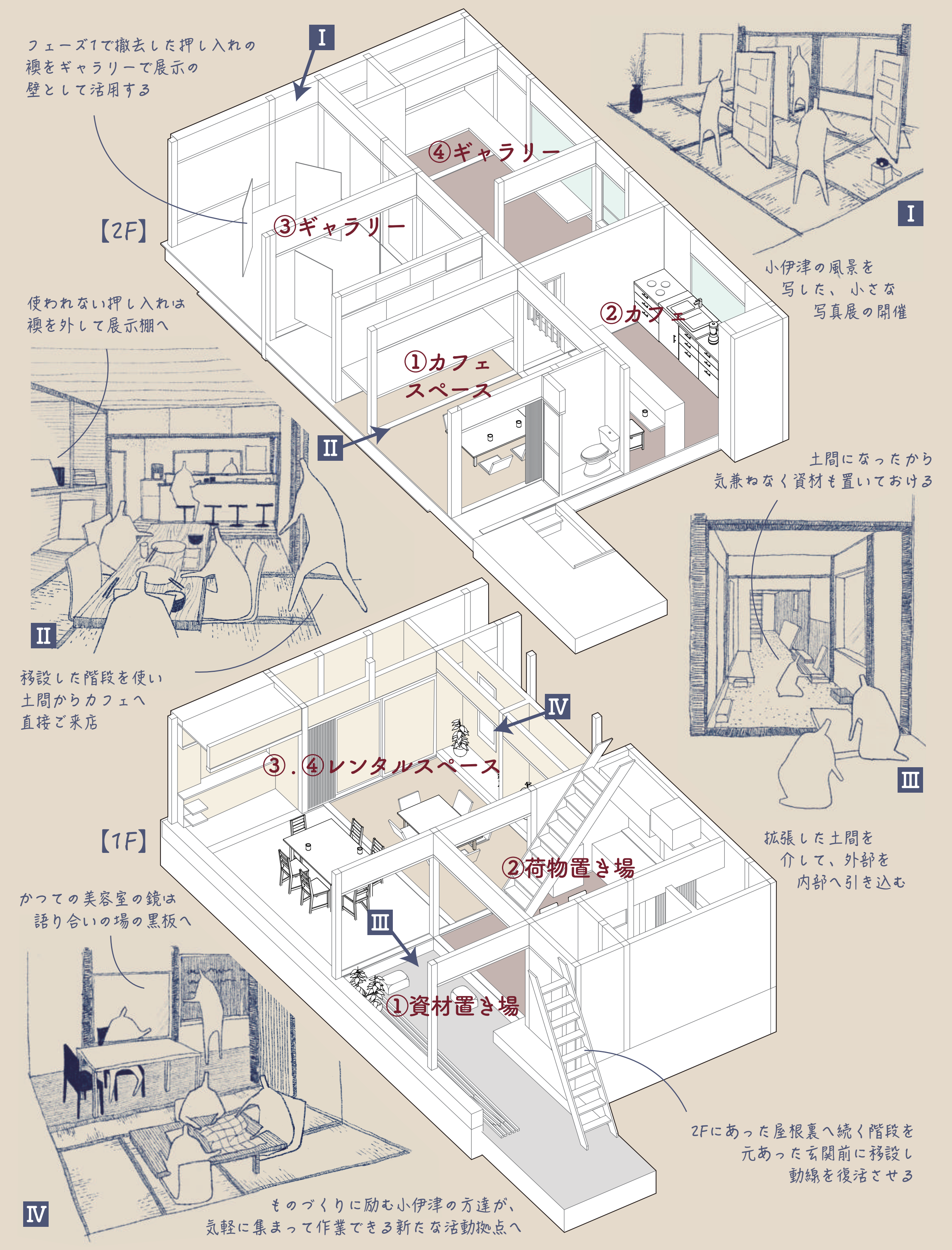

2F ①カフェスペース
床 —— 畳の新調
2F ②カフェ
色の継承
床 —— フローリングへ

【1F】

小伊津のアトリエ・作業場

1階は、作業場をまちに開き小伊津の人々が活動できる場所として貸し出しする。資材置き場の床を土間に改修することで出入りしやすくする。


1F ①資材置き場
床 —— 合板から石土間へ
1F ④レンタルスペース
床 —— 合板から畳へ

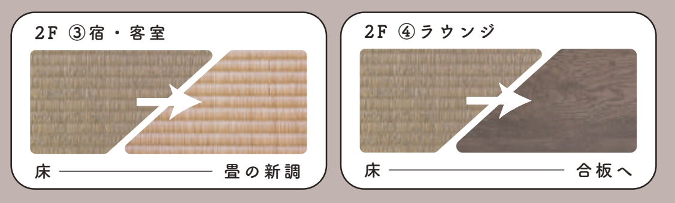

フェーズ1で撤去した押し入れの襖をギャラリーで展示の壁として活用する
【2F】
④ギャラリー
③ギャラリー
①カフェスペース
②カフェ
小伊津の風景を写した、小さな写真展の開催
使われない押し入れは襖を外して展示棚へ
土間になったから気兼ねなく資材も置いておける
移設した階段を使い土間からカフェへ直接ご来店
【1F】
③.④レンタルスペース
②荷物置き場
①資材置き場
拡張した土間を介して、外部を内部へ引き込む
かつての美容室の鏡は語り合いの場の黒板へ
2Fにあった屋根裏へ続く階段を元あった玄関前に移設し動線を復活させる
ものづくりに励む小伊津の方達が、気軽に集まって作業できる新たな活動拠点へ
I
II
III
IV

【第３期】訪れた人を引き込む 更新

【2F】

宿泊施設・お茶の間リビング

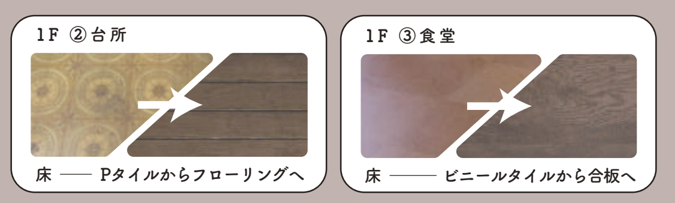
2階は、Phase2で設置したカフェを残しつつ、ギャラリーだった部分を客室として利用しリビングを設けることで、建物一体を宿と感じながら過ごせるようにする。

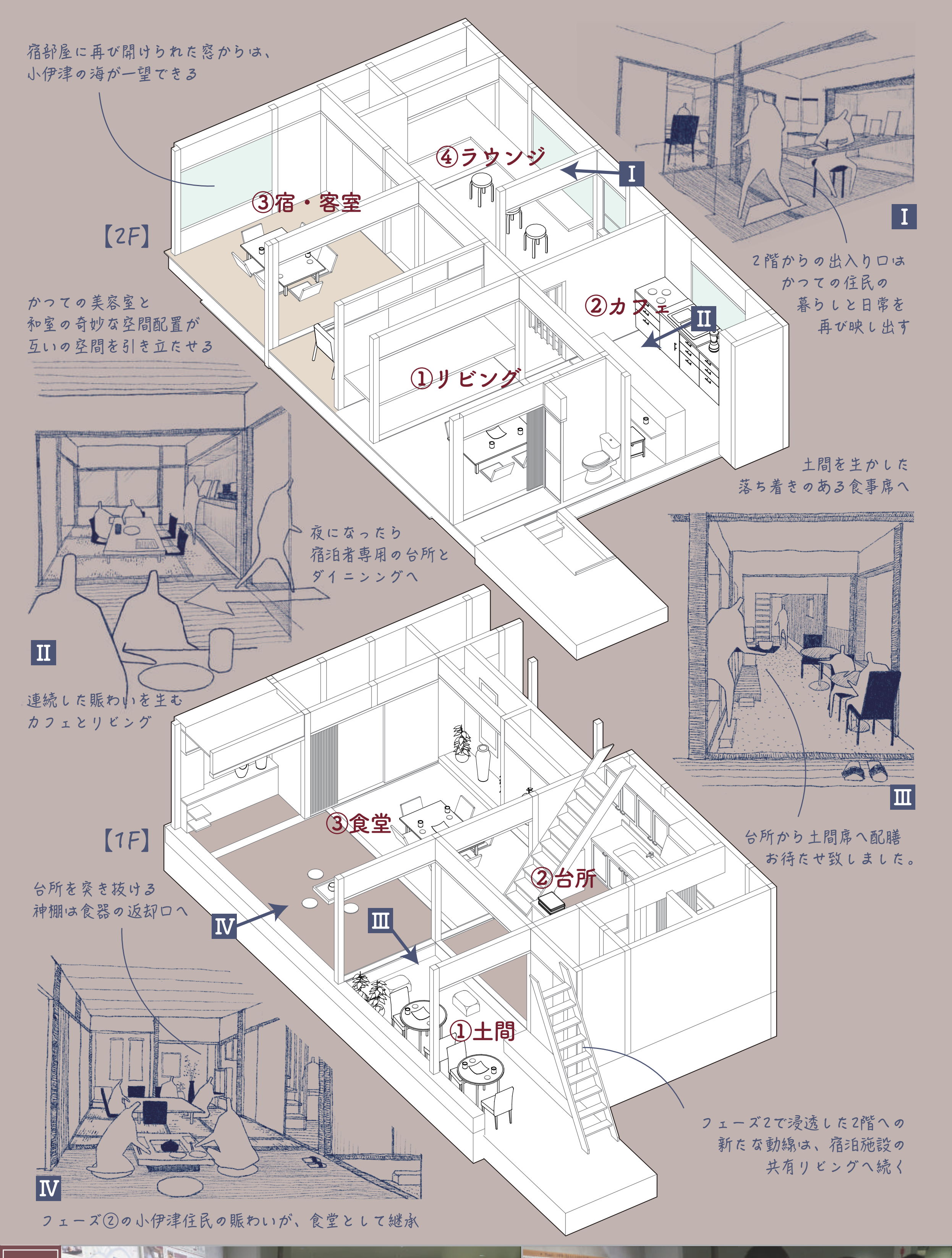

2F ③宿・客室
床 —— 畳の新調
2F ④ラウンジ
床 —— 合板へ

【1F】

小伊津食堂

1階は、台所とレンタルスペースの床材に手を加えて食堂にすることで、小伊津の人々や小伊津の外から訪れた人々を招き入れて交流できる場所とする。


1F ②台所
床 —— Pタイルからフローリングへ
1F ③食堂
床 —— ビニールタイルから合板へ


宿部屋に再び開けられた窓からは、小伊津の海が一望できる
【2F】
④ラウンジ
③宿・客室
②カフェ
①リビング
2階からの出入り口はかつての住民の暮らしと日常を再び映し出す
かつての美容室と和室の奇妙な空間配置が互いの空間を引き立たせる
土間を生かした落ち着きのある食事席へ
夜になったら宿泊者専用の台所とダイニングへ
連続した賑わいを生むカフェとリビング
台所から土間席へ配膳お待たせ致しました。
【1F】
③食堂
②台所
①土間
台所を突き抜ける神棚は食器の返却口へ
フェーズ2で浸透した2階への新たな動線は、宿泊施設の共有リビングへ続く
フェーズ②の小伊津住民の賑わいが、食堂として継承
I
II
III
IV

模型写真

1F：かつての階段の姿を復活させ、2 階へ人が出入りする

1F：食堂では囲炉裏や座敷席など、古き良き食事処になっている

2F：かつての空間に準えた、和のリビングと洋のカフェのギャップが空間に彩を与える

2F：宿に生まれ変わった和室からは外の海やラウンジの活気を感じられる

家主への発表

プレゼンボードを使用して設計提案を説明

1/20 模型で細部まで再現することで空間や使われ方を表現

工学院大学 冨永研究室 2024 小伊津集落プロジェクト　連絡先：080-9440-1208